

平成27年度 学校関係者評価(報告)

学校番号	24	学校法人静岡理工科大学 静岡北高等学校	記者	廣住雅人
------	----	---------------------	----	------

学校教育目標	1. 常に誠実で、清らかな心をもって物事に真剣に取り組むことができる人材を育成する。2. 現状に甘んじることなく、日々新しいものを創り出そうとする気持ちを持ち、何事にも積極的に挑戦していく人材を育成する。3. 技術の進歩が著しい今日、大学院・大学・専門学校という高等教育機関の場において、高度な科学技術を習得できるように、基本的な学習を身に付ける。	【総合評価】 国公立大学合格者を含む大学進学指導、専門学校進学指導、就職指導と多面にわたり、生徒とその保護者のニーズに応える指導が行われている。校長先生のリーダーシップが、教職員全体に響き、丁寧な指導が行われている。		
教育方針	将来、科学技術に夢と希望を持ち、創造性豊かな人材育成の基礎をつくる。			
今年度の重点目標		評価	学校側の成果と課題	学校関係者からの意見
1 教育力強化策を推進する ～「特色ある教育プログラム・教育システム」の開発を進め、進路実績の向上を図る。 (1) 教員の指導力(教科・生活)の教科を図る。 (2) 中高一貫教育を確立する。 (3) 理数教育を推進する。 (4) SSH事業を推進する。 (5) 独自の進路指導プログラムを展開する。	5	(1)～(5)を担当する分掌では、それぞれ目標達成に向けての活動が行われた点では評価は高いが、連鎖性に欠けたことと全体での検証が行われなかった。	独自の教育プログラム・教育システムを持っている静岡北高校に大いに期待します。	
2 法人内連携教育の教科を図る ～法人内大学、専門学校との連携教育を、受益者のメリットを際立たせる教育プログラムへ改編し、 高・大一貫コース、高・専一貫コース生を核として、志願者の増加を図る。 (1) 一貫教育の魅力あるプログラムを再構築する。 (2) 大学、専門学校の認知度や魅力を高める広報活動を展開する。 (3) 大学、専門学校の有益な情報をリアルタイムで広報する。	4	高・大一貫教育については、昨年度に続きワーキンググループでの検討が続き、これまでの教育に対するブラッシュアップに繋がった。高・専一貫教育については、高・専連絡会議が定期的に行われ、担当者間の意見交換が十分に行われている。	校内での高校担当者、法人内・間の各学校説明担当者による説明や、大学・専門学校の見学会なども計画され、事前のガイダンス機能が十分に展開されていた。法人内・間全体に丁寧な対応をしてくれる。	
3 国際化教育の充実を図る ～国際理解や国際交流に貢献できるグローバル人材を育成する。外国語を通じて言語や文科の理解、 情報や考え方を的確に理解したり、適切に伝えたりするコミュニケーション能力を育成する。 (1) 英語力は勿論のこと、異文化理解、他人との受容力や対応の柔軟性を育む。 (2) 受験英語の学習とともに、英語力を育む学習機会を研究する。 (3) 情報や考え方を適切に発信し得る力を身につけさせる学習法を検討する。	4	これまで提唱していた国際化が、周囲の影響もあり、一気に活発化してきた。海外との連携が多いことにより、こちらから出かけた、海外校が来校する機会が多いので、環境的には非常に恵まれている。	保護者の育った時代に比べ、多面にわたり変化しています。是非、時代・時流に乗り遅れることのない生徒の指導をお願いします。	
4 目標入学者数を達成する ～目標入学者数を確保し、健全な運営体質の維持を図る。 (1) 教育内容をアピールする広報活動を展開する。 (2) 他校との差別化を図れる広報媒体を作成する。 (3) 来るべき募集対象人口激減期への対応策を検討する。	4	広報活動の始まりである「体験入学」において、中学3年生とその保護者で2,015人を集客できたことは、静岡北高校への関心度が窺えた。学則定員440人に近づけることを最良策として、分析や広報活動や行ってきたが、結果的には定員を上回ってしまった(+41人)。	1 私学としての広報・募集活動を行ってきたはずなので、予測できない事態が発生したと想像します。 2 学校説明会などで、広報・募集担当者を中心に教職員が熱心に説明している姿を見ていましたが、説明会への参加生徒・保護者も多く感じましたので、入学者数の発表には驚いた。	
5 学校経営方針を実現するための教育活動の展開及び教育環境を構築する	4	上記4点を実現するために、それぞれの分掌で取り組んできた。ただし、日常業務に追われながらのことなので、活動の展開・教育環境の構築は滞り気味である。	学校を取り巻く環境も変化が激しい中、生徒が成長するための教育活動と教育環境の構築に期待します。	

領域	ねらい	評価項目	達成目標	昨年度の実績		成果と課題	次年度の取組
学校経営	設定された教育目標にそい学校経営計画書が作成され、それに基づいた教育活動を展開する。	教育目標、学校経営計画書、教育活動	年度末には教育目標がほぼ達成されているが、年度初めの計画に従い、年度途中での進捗状況に遅滞が生ずることのないようにする。	法人、学校としての教育目標が掲げられ、前年度の反省棟を含みながら、学校経営計画書が作成され、教員各人への落とし込みが図られた。	4	校長との情報交換を密にすることで、各教員が自分のミッションをよく理解し、計画された施策を実行し、外部から高い評価を受ける教育を展開した。	企業と同様、経営目標とそれに基づく教育活動が展開されていると思われませんが、時には型にはまらず、生徒の心を伸ばさせるような指導があつても良いと思います。
教育課程 学習指導	適切な教育課程が編成され、学習目標・計画が明示され、日常の学習活動を効果的に展開する。	教育課程、学習目標・計画、指導、課題実施、学習状況把握	次期学習指導要領見据えながら、自校の教育プログラムの推進を図る。 家庭学習(探究型学習)の定着を図る。 コース制の変更に伴う、生徒の進路(コース)選択に対して適切な助言指導を行う。	日常業務的には、評価項目を概ね達成した。次期学習指導要領実施に向け、改訂の狙いをふまえ、本校の現状と将来像を鑑み教育課程を編成した。	4	次期学習指導要領に関する研究は、教員への情報提供にとどまった。教科部会で情報交換をすることで進捗・内容に関する調整を図ることはできた。また授業アンケートをもとにした授業改善は行われたものの、十分なスキルアップ研修は行われなかった。	この分野においては、学校関係者にも得意、不得意があるので、学校に一任することが多い。ただし、時代の流れに乗り遅れるようなことだけは避けていただきたい。
生徒指導	健全な高校生活を送れるような生徒への啓発活動を行い、個々の生徒へのサポート体制を家庭との協力のもと確立し、生徒理解に努める。また自立した生徒の育成のための支援をする。	生徒への啓発活動、家庭との連携、事前・事後指導体制、人間教育、生徒理解、基本的な生活習慣の確立、自立した生徒の諸活動	心の成長を促進するような学校行事の計画や、生徒が積極的に外部との交流に参加できるような計画を立案し、価値観が多様化してくる社会を自ら知り、自ら解決していく能力を高めた。	問題行動が0になった訳ではないが、年々発生件数は減少している。理由としては、入学生と心の成長と、それを促す教員の指導力がある。問題発生時の初動と、その後の対応が効力を発揮している。	4	学校全体では生徒指導課、学級では担任による指導がタイムリーに展開され、問題行動を起こした生徒への対応や悩みを抱える生徒への対応が迅速かつ確に行われた。	体罰、いじめ、自殺と社会を震撼させるようなことが学校現場で多く起こっている。事態を未然に防止する、あるいは起こった後の迅速かつ適切な解決に動いていただきたい。
進路指導	学校の方針に基づいた進路指導を展開し、個々の生徒の進路希望に即した緻密な指導を実行する。また、本校独自のキュリア教育を実施する。	学校の方針に基づく進路指導、生徒への情報提供、個々の生徒への対応、就職指導、進学指導、キャリアパートナーシップ事業	これまでの成果に満ちることなく、時代の主流を捉え、各界に求められる人材の育成を図れるような教育プログラムを再構築する。	上級学校への進学から就職に至るまで、そして、平日の放課後の講座や隔週土曜日の講座(サタデースクール)等、生徒の「夢の実現」に向け頑張るが「好き」を叶えるために、教員一丸となつての指導が行われた。	4	日常生活の中で生徒自らがPC教室の利用による情報収集や教員からの情報提供により、早期段階から進路意識を高める教育活動を実施することができ、確固たる進路実績を成果として残すことができた。また、キャリアパートナーシップに関しては、法人内・間の高等教育機関の協力を得ながら、受け入れ事業所を拡大することができた。	1 大学進学指導、専門学校進学指導、就職指導と多面にわたり、生徒とその保護者のニーズに応える指導が行われている。 2 卒業生の保護者からも北高を卒業して良かったという声を良く聞く。
安全管理	日常から防災に対する意識を高め、予期せぬ災害時に適切な対応ができる体制作りをすることが必要。また、学校としても校内の危険箇所の定期的な点検、スクールバスの安全運行といった意識を常に持ち合わせる必要がある。	防災訓練(校内・校外)、災害時の対応、安全な教育環境、安全なスクールバスの運行	震災に遭った際、今まではマニュアルにのっとっての集団行動が主であったが、今後は、個々に生き抜く意識の高揚とその実践的防衛を指導することが大切と考える。防災教育を推進する。	防災訓練は、時間的制約もあり、避難経路の確認と、津波被害を想定して高所への迅速な移動を行った。スクールバスの運転手安全運転講習も実施され、安全選手に対する意識は常に高いものがある。	4	校内の危険箇所に関しては、学期の初めと終わりに危険箇所の確認を実施した。スクールバスの運行に関連しては、公共の避難場所地図の配備、安全運転講習を実施した。	今、社会では多面にわたり、「安心・安全」が叫ばれている中、逆に「安心・安全」神話的なものが崩れる場合もある。卒業後の生徒は前途多難であるので、多難に巻き込まれぬような事前指導に期待します。
保健管理	生徒の健康管理のための検診計画を作成・実行し、疾病者に対する治療勧告を確実に行う。また部活動の活性化を図り、ボランティア活動に積極的に取り組む。	検診計画、健康管理指導、運動部・文化部の活性化、ボランティア活動への参加	生徒の保健委員会を活性化させ、健康管理、怪我防止への日常の呼びかけを行っていく。利用人数が増加傾向にある心の相談で入室した生徒への対応を、生徒相談員やスクールカウンセラーと連絡を密に取り合い行う。保健室の管理(薬品、個人情報)機能を高める。	生徒・教職員の健康診断受診率を高めることができた。各種検診では、これまでの実施方法に改良を加え、全体検診時間の短縮を図れた。安全衛生委員会の機能を高めることが課題である。	4	校医との連携を取りスムーズな検診を実施できたが、治療勧告に関しては、昨年同様三者面談も通じて保護者の協力も得た。県大会出場運動部、東海大会出場運動部、全国大会出場運動部と活躍が目立った。	1 保健室の利用数の多さ(年間約3,000件)は、学校からの情報で聞いていますが、事実として捉えたとしても、対応する養護教諭の苦勞は並大抵ではないと察します。 2 教職員も心身の疲労が多いことが原因で、報道されることもあります。北高の教職員は丁寧な指導を行ってくれ、大変感謝していますが、体が資本ですので気をつけてください。
特色ある教育	法人のスケールメリットをいかし、本校独自の高・大・高・専一貫教育を推進し学園全体の活性化を図る。また、課題研究を推進し他校との差別化を図りつつ、進路実績につなげる。	高・大・一貫教育、高・専一貫教育、外部機関との連携教育、SSH事業への取り組み、課題研究	高・大・一貫教育・高専一貫教育の内容の検証と検討。社会で求められる課題発見力、課題解決力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力を身に付けさせるために課題研究を推進させる。	静岡理工科大学進学者・法人内専門学校進学者の安定した数の送り込みができた。開催12回を重ねた課題研究発表会も対象者が増え、運営方法にも改善が加えられた。	5	高・大・一貫教育に関しては、大学と高校間でワーキンググループを作り経営陣に対し改革案の答申をするにまで至ったが、学内への浸透がいま一つであった。高・専一貫教育に関しては、ルーチン的な運営が見られ改善策についても大きな効果が見られなかった。	1 今、いずれの学校法人においても、法人(グループ)力の再強化を図っている。北高の法人内・間メリットを生かした高・大・一貫コース、高・専一貫コースは、他校には類のないものなので、より一層の発展に期待します。

領域	ねらい	評価項目	達成目標	昨年度の実績		成果と課題	次年度の取組
組織運営	組織的な校務分掌体制を整え、規律をもって教職員が服務を全うしする。また計画的な予算編成を中長期的な観点から考え、日常の経理業務を正しく管理する。加えて個人情報に関する管理、公文書管理を適切に行なう。さらに保護者・地域と連携した活動を展開する。	効果的な学校運営体制の確立、組織的な校務分掌体制、規律正しい勤務体制、連携した危機管理体制、計画的な予算執行、中長期計画の策定及び遂行、経理業務の管理、個人情報保護、公文書の管理、情報収集体制の確立等、効果的な活用がされているかチェック機能の確認をする。	効果的な学校運営体制の確立、組織的な校務分掌体制、規律正しい勤務体制、連携した危機管理体制、計画的な予算執行、中長期計画の編制及び遂行、経理業務の管理、個人情報保護、公文書の管理、情報収集体制の確立等、効果的な活用がされているかチェック機能の確認をする。	委員会やプロジェクト等で今日的な本校の進むべき道が検討され発表された。 ウェブフロー・システム(文書の電子化、電子印)の導入により、情報と文書の管理が適切に行われた。	3	評価項目・達成目標に対しての態勢づくりは希薄であった。また、部長会を通じて横の連携に努めたが、いままっ共通理解に欠けるものがあった。職員の服務意識に関する啓発はしっかりと行われた。危機管理に関しては、法人の連絡がやや遅かった。経理関係のことに限らず、管理、予算編成・執行共にしっかりと行うことができた。情報管理に関しては、フロントアウトされたものがフロント上に放置されるなど若干の甘さがある。文書管理については、裏書き・報告書関係の保存を電子化するシステムを作ったが、逆に処分する体制作りができていない。	1 中学・高校で教職・業務にあたる教職員は、150人に近いと聞いています。その数を動かすための学校運営体制、組織的な校務分掌を整備することは大変であり、さらに実際に稼働することも大変であると推察します。 2 生徒は教職員の業務遂行振りを観察しています。日常気苦労が絶えないと思いますが、是非生徒のために良い手本を示してください。
研修	学校の教育内容が問われる時代、教職員の資質向上が常に求められるので、計画的かつ時代が求める教師となっていくための研修を的確に実施し、各教職員が個々のスキルを上げていく体制作りをする。また、研修内容を共有化していくためのシステム作りをしていく。	計画的な研修体制の確立、郊外研修への参加、研修報告会の実施	系統的・継続的な実施のために、教職員必須の研修や、時流に即した研修を計画する。	予備校等における教育研修セミナー継続的な参加により、指導力向上に繋がっている。 教員が単独で参加した研修については、職員会議を利用して報告し情報の共有化を図っている。	3	教職員の資質・指導力向上のため、重点目標に基づいた校内研修計画が、立案・実行され積極的に参加した面もうかがえたが、理解・実行面・フィードバックの面で希薄であった。また、報告書の回覧はされたものの、報告会は実施されなかった。	1 生徒を育成するのは、学校一任という考えもありますが、思春期の子供を抱えた保護者対象の研修も検討していただきたい。 2 長期休業中でも進学講座がある中で、校内研修が開催されたり、校外での研修に参加されたりと、生徒の指導のために日々努力している教職員に脱帽です。
保護者、地域住民との連携	学校を支えてくれる保護者の会や外部団体との連携を強化し、学校運営を側面から支援してくれる組織の意見を受け入れながら、更なる本校の発展を目指す。	保護者の会との情報交換、学校運営に対する外部団体の参画、外部要望の学校運営に対する反映、保護者に対する協力依頼	ねらいの原点に戻り、学校を支えてくれる保護者の会や外部団体との連携を強化し、学校運営を側面から支援してくれる組織の意見を受け入れる方法を再構築し、本校の更なる発展を目指す。	保護者の会が、講演会や広報誌など、自ら積極的に活動をすすめることで活性化してきた。学校の教育を理解し、教育活動に協力的な保護者の会に成長しつつある。	4	保護者の会との間では、定例会をスムーズに実施するために、三役と事前に口頭での説明と意見交換を行い連携を取ることができた。また、キャリアパートナーシップについては、法人内の大学・専門学校の協力を得て、独自に企業開拓を行うことができた。	1 広い校地で教職員だけでは管理が大変と思われれます。保護者同士又は教職員との親睦を深める意義も含めて、保護者の会として環境整備実施を希望します。 2 他校は地域住民に様々な形での学校開放が行われています。「安心・安全」対策を講じた上で、開かれた学校を検討してみたいかがでしょうか。
施設設備	施設設備の美化と定期的な点検を確実にし、安全管理に努め、生徒たちにとっての学習環境を整備する。	効果的な施設利用と環境美化、施設・設備の点検、学習環境の整備、図書館の活用	日常的に使用する施設や用具、備品による事故・怪我が起こらないようにチェック体制、教職員の危機管理体制を構築する。 節電への取り組みを行う	生徒が求める書籍(大学進学、進路選択、SSH研究関連、等)は、年々充実してきた。校舎も新たに増築し、小教室授業に支障が無くなった。施設・設備の定期点検も実施された。	4	大車な行事前教室整備でワックスを掛けることが習慣化され、あえて実施日をもうけず実行された。また、修理依頼に関しては口頭で受けた部分もあったが、「修理願」を提出しての対応がほぼできた。図書に関しては、取り組み生徒が広がる課題研究に関する関連図書を充実させることができた。	1 各種説明会や三者面談などで学校を訪問すると、各所がきれいに整備されています。こうした環境下で生徒は情緒豊かな学校生活を送れるはずと確信しています。 2 公共心・道徳心が不足しがちな現代っ子を抱え、学校施設・設備の管理・維持は大変でしょうが、よろしくお願ひします。
				総合評価	4		